

2017. 3. 23 (231)



横井夏子氏

■ 略 歴

中央大学法学部在学中に、ルーマンの著作と出会う。東京大学大学院教育学研究科に進学後、ルーマンを手がかりに信頼／不信の機能分析を研究。2013年修士(教育学)取得。民間教育研究団体による教育実践記録から、教育理論と実践との往還の必要性を痛感する。現在、法政大学ほかで非常勤講師、教育科学研究会で月刊誌『教育』編集委員等を務めつつ、博士論文を執筆中。

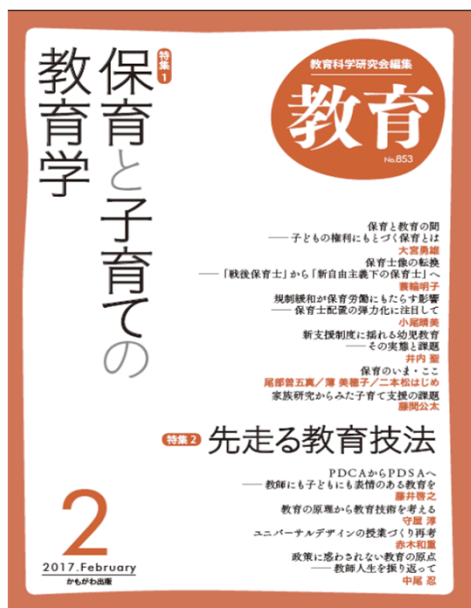
横井夏子氏

講師 東京大学大学院教育学研究科博士課程

テーマ システム論における「信頼」概念の特徴
・ルーマンによる機能分析から

日時 平成二十九年三月二十三日(木)

三月例会 (JWSE女性エンジニア活生分科会と共催)



教育科学研究会編『教育』
2017年2月号(かがわ出版)

ニクラス・ルーマンのシステム論は、複雑性を縮減する多様なメカニズムを記述することによって、社会構造を説明している。そのなかでも、近代以降、複雑に機能分化した社会において、「信頼」はシステム成立の前提条件といえる重要な概念である。本報告では、「信頼」に備わった①過去の情報を過剰利用し、将来についての判断を下す、②行為選択にリスク認識を伴う、という二つの特徴を確認する。